

ミヤマワラビ *Thelypteris phegopteris* (L.) Sloss. ex Rydb.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の植物で、県内では生育地が少ない上、開発の影響を受けて減少している。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、長く横走する。葉柄は長さ 10～30cm、わら色で下部に鱗片がある。葉身は三角状長楕円形、2回羽状深～全裂、長さ、幅とも 10～15cm、先端は鋭尖頭になる。羽片の基部裂片は最下羽片を除き中軸に流れ、そのため中軸に不連続な翼があるように見える。裂片は長楕円形から三角状、鋭頭から円頭である。胞子のう群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（村松正雄 15773, 1994-8-23）、3 東栄（芹沢 87386, 2011-9-24）、4 津具（村松正雄 24408, 2008-8-15）。西：20 足助（村松正雄 16760, 1996-5-25）。愛知県では小群落が点在するのみである。

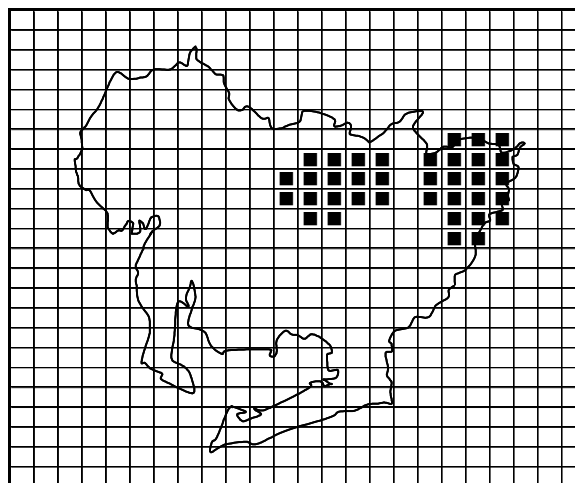
【国内の分布】

北海道、本州（中部地方以北）に多く、それより西では紀伊半島大峰山系、中国山地、九州（祖母山、屋久島）などに分布する。

【世界の分布】

北半球の温帯域に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯林の林床や林縁に群生する。愛知県の場合、豊根はそのような環境であるが、東栄では低地の風穴周辺に生育しており、温帯性の植物が暖帯域の低地に生育する例として特に重要である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊根村では茶臼山に多かったが、スキー場の建設をはじめとする観光開発によって自生地の大部分が破壊され、ほとんど見られなくなった。東栄町では、現在のところ良好な状態で生育しているが、路傍のため道路拡幅等による影響が懸念される。

【保全上の留意点】

旧鳳来町北東部から東栄町にかけて点在する風穴の周辺には、低標高地であるにもかかわらず多くの温帯性植物が生育している。このような場所は、周辺の森林を含めて、特に注意して保全する必要がある。また、茶臼山一帯は温帯性植物の生育地として重要であり、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

独立属 *Phegopteris* とする見解もある。

【関連文献】

保シダ p.107, 平シダ p.210, 学シダ I p.432, SOS 旧版 p.40.
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 286-294. 東京大学出版会, 東京.